

# JAバンク福島の地域密着型金融の取組みについて

平成 22 年 4 月

JAバンク福島

JAバンク福島(福島県下JAと農林中央金庫福島支店)では、農業と地域社会に貢献するため、平成19~21年度JAバンク福島中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでまいりました。

最近の地域密着型金融の取組事例について取りまとめましたので、ご報告いたします。

農林中央金庫 福島支店

JA新ふくしま	「ASTによる農家支援の取組み」	・・・	P 1
JA伊達みらい	「食農教育活動」	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
JAすかがわ岩瀬	「『農家応援資金』の創設」	・・・・・・・・	P 3
JAそうま	「農業後継者育成支援」	・・・・・・・・	P 4

## タイトル A S Tによる農家支援の取組み

J A名 新ふくしま

1 動機 (経緯)	・農家組合員の相談窓口役として設置した農家支援チーム「A S T」が、イチゴ高設栽培を開始するにあたり不安を抱えていた担い手農家の相談を受けて、ハウスの施工方法や農業資金の調達について対応し、新規事業の立ち上げを支援したものの。
2 概要	<p>・農家支援チーム「A S T」は営農部農業振興対策室の5名で構成し、徹底した訪問活動を基本に管内の担い手農家の悩みや要望などを聞き取り、その解決策を立案・実践することを目標に、平成20年3月に活動を開始。</p> <p>・平成20年3月～10月にかけて、桃やりんごなどを栽培する管内の担い手農家から新たに補助事業を活用してイチゴ高設栽培を始めるにあたって、補助残部分の資金調達について相談されたのを受けて、A S Tと融資担当者が連携してJ A農機ハウスローンにより資金を対応。また、暖房装置にかかる燃油代の節約について相談を受けたため、薪による暖房装置を提案するなど担い手農家の要望に沿って対応した結果、ウォーターカーテン方式を導入するなど、新規事業の立ち上げを支援した。</p>
3 成果 (効果)	・日常の訪問・相談活動を通して、担い手農家の新規事業に対する不安を取り除き、農業経営の発展に貢献することができたのに加え、これまではJ Aとの取引が少なかった担い手農家との住宅ローン等の取引の拡大や信頼関係の再構築につながった。
4 今後の 予定(課題)	・現在は担い手農家を重点に訪問活動を実施していることもあり、一般の農家組合員にはA S Tの活動がまだまだ理解されていない。広報誌等による一般農家組合員に対する活動内容の報告や新たな訪問先の選定が課題となっている。

&lt; 補足説明欄 &gt; (完成したイチゴ高設ハウス)

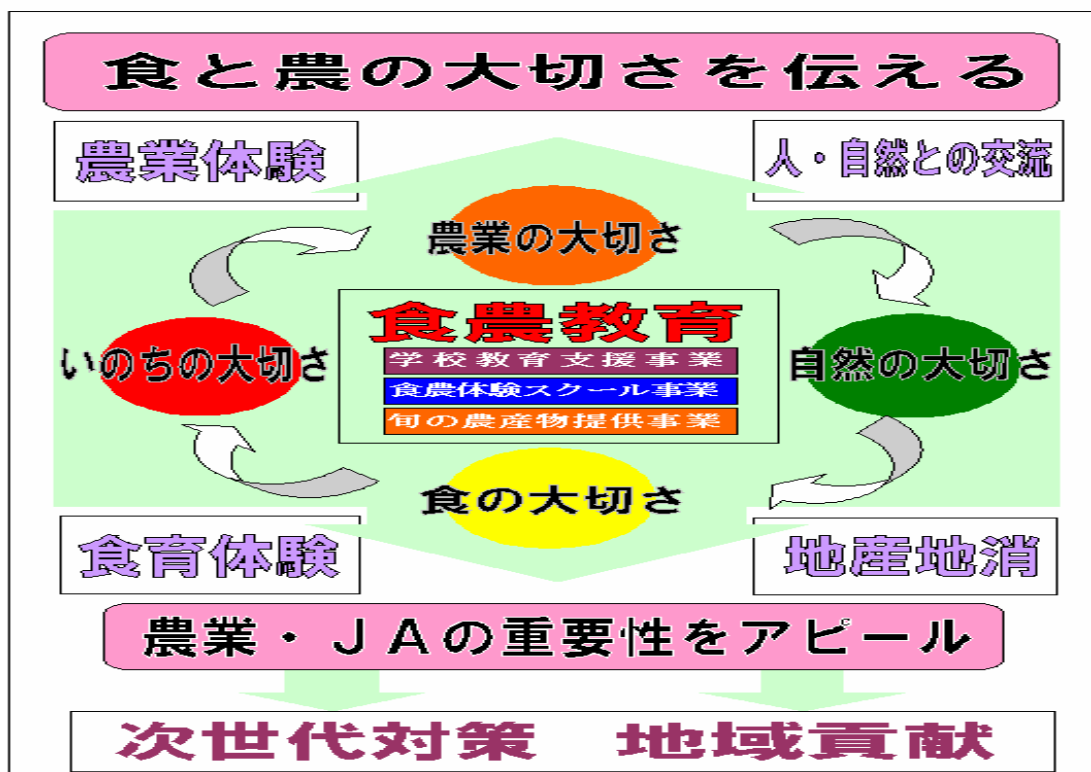


タイトル 食農教育活動

J A 名 伊達みらい

1 動機 (経緯)	・主に子どもたちを対象に、「農業」に対する理解や、「食」の大切さを通して「農業」の重要性、「食」にかかわる全ての人への感謝の気持ちを育んでもらい、また次世代対策の一環としても、J Aとの関わりを強くし農業やJ Aに対する関心を高めてもらうべく実践している活動。
2 概要	・J A伊達みらい食農教育プランを掲げ、「体験する食農教育」「知る・学ぶ食農教育」「ふれあう食農教育」を3つの柱に、学校教育支援事業、食農体験スクール事業、旬の農産物提供事業の3事業に取り組んでいる。
3 成果 (効果)	農業に対する関心が高まるとともに、J Aとの関わりの増加や、J Aへの関心の高まりが得られた。 農作業体験を通して、農作物を栽培する苦労や喜びを実感し、「農業」の重要性や「農家」や「食」に対する感謝の気持ちが育まれた。 <実績> ・学校教育支援事業・・・24校、5園で実施(2,408人参加) ・職能体験スクール事業・・・7回開催(479名参加) ・旬の農産物提供事業・・・22園にいちご424パック贈呈
4 今後の 予定(課題)	・現段階での食農教育のレベルをステップアップした、次世代に向けた農業後継者育成に繋がる新たな段階での食農教育取り組みも必要。

<補足説明欄> (J A伊達みらい食農教育取組概要図)

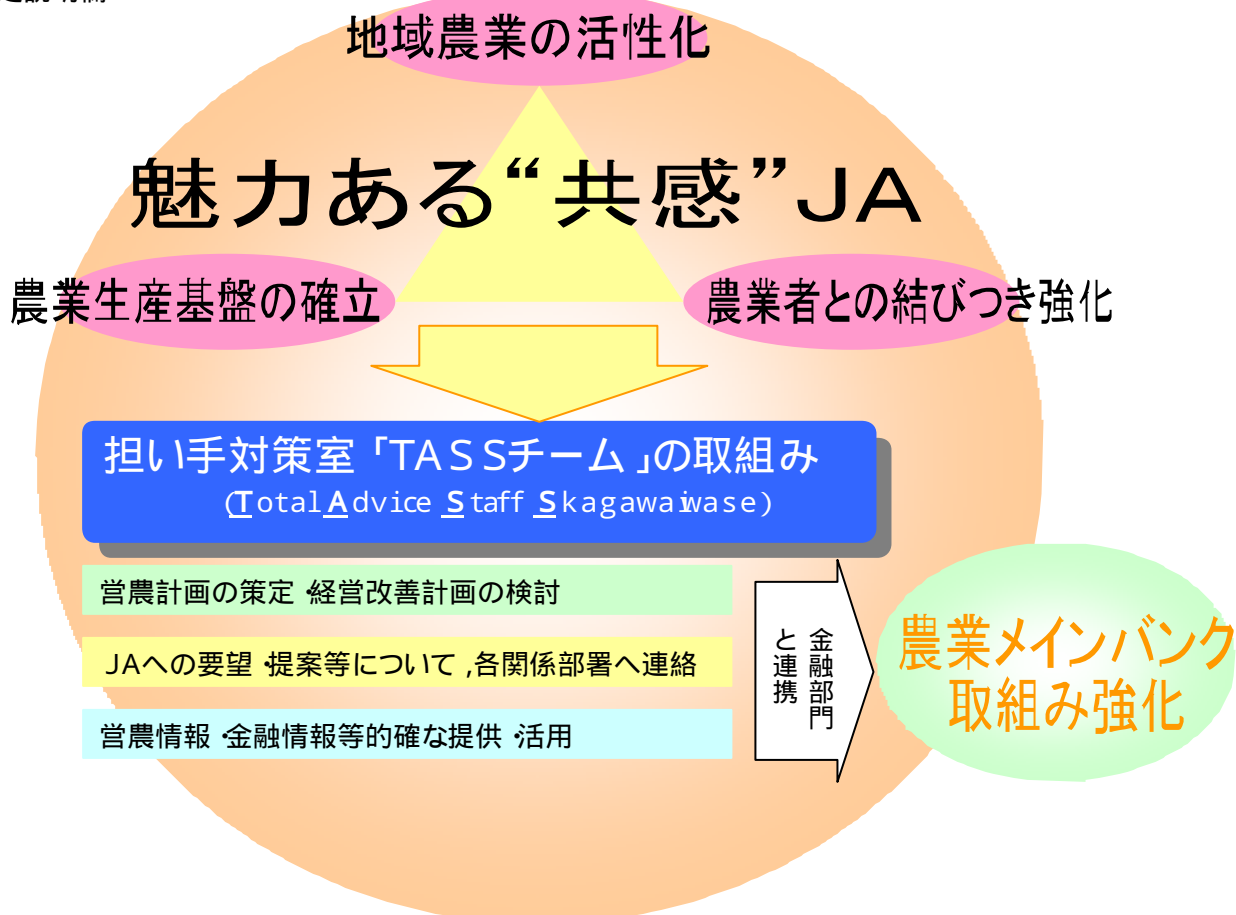


タイトル 『農家応援資金』の創設

JA名 すかがわ岩瀬

1 動機 (経緯)	・担い手対策室(TASSチーム)による担い手農家総訪問活動の取組みのなか にあって、農産物価格の低迷、農業生産資材の高騰等、激変する農業情勢 のなか、農家組合員に生産基盤の整備・維持拡充に要する(前向き)資金を 低利で対応することにより、農家の応援および農業の発展に資することを 目的として、平成21年4月1日より取扱開始。												
2 概要	1 資金名称 「農家応援資金」 2 資金用途 設備・運転資金、農業経営に必要な資金 3 貸付限度額 事業費の範囲内 4 貸付利率 5年以内は1.0%の固定金利、6年目以降は長プラ連動 5 貸付期間 7年～20年以内 6 保証・担保 農業信用基金協会か個人保証、または併徴												
3 成果 (効果)	<p>農業関連資金実行実績 (集計期間：4月～12月)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>資金種目</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21年度</td> <td>農家応援資金</td> <td>74件</td> <td>182,023千円</td> </tr> <tr> <td>H20年度</td> <td>プロパー農業資金</td> <td>54件</td> <td>137,748千円</td> </tr> </tbody> </table>	年度	資金種目	件数	金額	H21年度	農家応援資金	74件	182,023千円	H20年度	プロパー農業資金	54件	137,748千円
年度	資金種目	件数	金額										
H21年度	農家応援資金	74件	182,023千円										
H20年度	プロパー農業資金	54件	137,748千円										
4 今後の予 定(課題)	・TASSチームを中心に、個人農家ばかりでなく農業法人に対しても積極 的なアプローチを展開し、農業メインバンクとしての取組みを強化していく。												

< 補足説明欄 >



タイトル 農業後継者育成支援

JA名 そうま

1 動機 (経緯)	・「福島県ふるさと雇用再生特別基金事業」を活用した南相馬市からの委託事業で「農業後継者育成支援事業」を行なっているもの。
2 概要	・南相馬市在住の失業者で農業に興味・やる気があり、農業を始めたい方を、ハローワークを通じて募集し、農業研修生として受け入れている。 ・現在、5名の方が当JAの臨時職員として、南相馬市管内の水稻・園芸を中心とした先進的な中核農家で、農業技術や経営のノウハウを身につけるための技術研修を受けている。また、当JAにおいては新規就農者の就農のための資金の相談も行っている。
3 成果 (効果)	・新規就農者にJAの役割を認識してもらうことができた。 ・新規就農に向けた研修の場を提供できた。 ・新規就農者が農作業を通じて、農産物を栽培する苦勞や働く喜びを実感することができた。 ・自分達で農産物を生産することにより、価格についても興味をもつようになった。
4 今後の 予定(課題)	・JAとして管内の農業後継者不足や耕作放棄地の解消を図るとともに、新規就農者への栽培技術や農業経営に関する支援や、女性農業者が男性とともに農業経営に参画できる体制づくりを支援していく。 【新規就農者からの要望】 ・新規就農に向けた土地取得や設備投資の資金等の支援をJAグループで検討して欲しい。

< 補足説明欄 >

研修生募集の仕組み

